

透析中止5人が選ぶ

福生病院 新たに2人判明

公立福生病院(東京都福生市)の人工透析治療を巡る問題で、2014年ごろ以降、新たに2人が外科医(50)

から治療をやめる選択を提示され、いずれも死亡していた。昨年8月に亡くなった女性(当時44歳)も含めて

計5人が治療の中止を選び、うち4人が亡くなった全容が判明した。これとは別に病院では13年4月〜17年3月、最初から透析治療をしない「非導入」で計20人が死亡したことが分かっている。

透析治療をやめたり人とも終末期ではなく、治療を続けられ「年単位で生きた」と外科医は話している。外科医と腎臓内科医(55)によると、14年ごろ、腎不全のため意識不明で運ばれた80代女性に緊急的な治療を実施。意識が戻った女性が「透

析をやめてくれ」と申し出たため、外科医が「やめたら死につながる」と説明。本人と家族の承諾を得て翌日に透析を中止し、女性は自宅に戻って死亡した。外科医らは「驚いた。(最初は中止に)積極的ではなかった」と振り返る。だが、「(患者が治療を)よく理解しないまま(医師側にお任せ)するのは「正しい医療ではない」と考え、継続か中止かの選択肢を提示することに決めた。

たという。

昨年に入ると、「より具体化し、自信を持って」治療をやめる選択肢を示すようになった。80代女性の透析用血管の分路が不調で持病もあったため、外科医が中止を含めた選択肢を提示。家族も同意して治療は中止され、女性は約2週間後に自宅で死亡した。さらに、30代男性から「あと何

れ、外科医は、一生涯ける必要があることを説明すると同時に、やめる選択肢を提示。男性は「透析をする意味も価値も感じない」と話して紹介元のクリニックに戻った。生死は不明だという。

外科医は、透析治療をやめると心臓や肺に水がたまり、「苦しくなってミゼラブル(悲惨)で、見ているこちらも大変。透析の離脱(中止)はしてほしく

初めて治療をやめる選択肢を示したのは15年ごろ。導入後2カ月の男性(55)に「継続するも自由、やめるも自由」と提示。男性は「やめる」と言って自宅に帰った。男性は食事制限を受けていたがステーキを食べて亡くなったのだという信念で、適正な選択肢を示している」と話している。【斎藤義彦、梅田啓祐】

良くなるのか」と問わ

らも大変。透析の離脱(中止)はしてほしく